

4歳児を対象としたオンライン表現活動の実践 ～[発表を通しての気づきや学び]～

九州大谷短期大学幼児教育学科2年

石原優香・角田結花・紫牟田亜優・
土山聖夏・東野夏実・日高莉音・
平川美結・本田玲奈・松永純花・
松山美莉亜・宮崎宝希



1.テーマ

私たちのグループでは、「思いやり～お友だちの大切さに気づく～」というテーマに選定した。4歳児はすでにどのようなことができるようになってきているか、またどのようなことが発達している途中なのかをそれぞれ出し合い話し合いを進めた。

話し合いを通して4歳児では1人遊びから集団遊びの楽しさに気付いていく年齢なのではないかと思った。また、お友だちと関わる中で言い合いになったり喧嘩へ発展してしまったりすることも多くあるのではないかと考えた。このような状態から4歳児を担当する私たちは「思いやり」の気持ちを持ってお友だちと関わるのが大切にする事とした。

また、今回初めてリモートで私たちと子どもたちを繋げるという試みとなったため、園児が劇の内容を理解することができるのかという不安が生じた。そのためリモートで観ている子どもたちが少しでも私たちの劇を身近に感じることができるよう、劇のテーマを「園生活」にすることに決定した。

1人の子ども(主人公)に焦点を置きながら園生活でのお友だちとの様々な関わりを通して、主人公や周りの園児が徐々に思いやりを持ち、お友だちの大切さに気付いていくことができるような劇を作りたい。

2.この発表で大切にしたこと

私たちは、子どもたちがより身近に感じられる劇を意識した。保育室をイメージし、装飾を季節あるものにした。また、子どもはどのような反応や動きをするかメンバーで話し合い、園児を表現した。

3.内容について

①作品の構成(台本)

<1>

★画面:画用紙でかいた「なかよし幼稚園」を写す

ゆか:味坂保育園のお友だちこんにちは！私はりりんっていうんだ、よろしくね！私ね、ちょっとだけ時間を進めたり戻したりできる不思議な力が使えるんだ！すごいでしょ？今日はなかよし幼稚園という所に遊びに来ているんだけど、4歳児のゆり組さんが今から何かするみたいだからちょっと一緒に覗いてみようよ！

<2>

★画面:保育室を映す。3つ机を出して、椅子に皆座っておく。(絵本・折り紙・お絵かきに分かれて座る。)

すみか: 今から自由遊びの時間です。絵本を読んだり積み木を使ったり色々遊んでいいけど、お友だちと仲良く遊びましょうね。できるかな？

園児役: はい！(全員)

すみか: はいじゃあ遊んでいいですよ。

★ゆか(絵本)、みりあ・あゆ(折り紙)をする。

ゆか: (絵本を取りながら)
じゃあ私は絵本読もうかな。

★画面:みゆに近付ける。

みゆ: (ゆかを眺めて)
私も絵本読みたい。
(ゆかの絵本を自分の方に引き寄せようとする。)

ゆか: みゆちゃん、まだ読んでるからやめて！
(2人の取り合い)

みゆ: もういいもん！(みゆがいじけた様子でゆかから
離れ、あゆとみりあの所に移動する。)

★画面:みゆに近付けたまま追う。
★あゆ、みりあはお絵かきをしている。

みゆ: 何かいてるの？

あゆ: みりあちゃん!

みりあ: 私はあゆちゃん描いてる!

みゆ: ふーん。みゆも描こうっと。
(みりあの画用紙に描こうとする)

みりあ: ねえ自分の画用紙に描いてよ! やめてよ!

あゆ: みゆちゃんだめだよ! やめてっていつてるじゃん!

すみか: はーい、そろそろ帰る準備をしましょうね。
(呼びかける)

★画面を切り替える

ゆうか: あらら、どうやらみゆちゃんがお友だちと楽しく遊べてないまま帰りの準備になってしまったみたいだね。みゆちゃんの明日の様子が心配だからまた見にこよ
うかな。あ、私の不思議な力で明日にしちゃお!

★効果音か何か足す、画面も変わるといい(間)

< 3 >

★保育室を映す

せいか: 積み木でなにかつくりたいな。あ! おうち作ろう!

なつみ: せいかちゃん、私も積み木したい! かたらせて。

みりあ: みりあもしたい!

せいか: いいよ! 大きいおうち作ろうね!

(おうちを作る)

★大きい積み木は2人で持つなどして園児っぽく!

★積み木(おうち)は後ろ寄りに置いて人間とかぶらないようにする。

★おうちが先にできるからおままごと

(みゆは1人で黙々とキリンを作る)

★カメラをみゆに近付ける。追う。

みゆ: あ、キリンさん作りたいのに積み木が足りない。

(周りを見渡して、おうちを作っているのを見つける。そこまで移動する。)

★みゆと4人がいい感じで映る所でカメラを固定する

みゆ: みゆの積み木ないから!

(セリフを言いながら積み木を取る)

せいか: あ!なんで取るの!

なつみ: もうすぐ出来上がるのに!それがないとおうち完成しないんだよ!

みりあ: 昨日もみゆちゃんにお絵描きで嫌なことされた!もうみゆちゃんと遊びたくない。

せいか: 向こう行こう!

★みゆ以外はける。画面はみゆのみ。

(みゆはしょんぼり)

★みゆ画用紙

<4>

★モニター

ゆうか: みゆちゃんみゆちゃんこんにちは!

みゆ: え?

ゆうか: 私はりりん!このなかよし幼稚園に遊びに来てただけど、みゆちゃんがお友だちと仲良く遊べてなさそうだったから心配して見てただ〜。

みゆ: うん、お友だちにもう遊びたくないって言われちゃった。

ゆうか: そうだね、みゆちゃんはどうすればお友だちと仲良くできるかわかる?

みゆ: 分かんない。でもお友だちと仲良く遊びたい。

ゆうか: そっか〜。でも大丈夫!私の他にみゆちゃんのこと見てくれてたお友だちがいるんだよ!それはね味坂保育園のお友だち!皆にどうしたら仲良く遊べるか聞いてみるのはどう?

みゆ: 聞きたい聞きたい!

ゆうか: 味坂保育園のお友だちに教えてほしいことがあるんだけどきいてもいい?
(子どもの反応を待つ)

<Q1> おもちゃを借りたい時何て言ったらいい?

あ〜それはいいね!(共感)

もう一つ聞いてもいい?

<Q2> お友だちと一緒に遊びたい時は何て言ったらいい?

そうしたら仲良く遊べそうだね!(共感)

お友だちと仲良く遊ぶためには、優しい気持ちの"おもいやり"が大切ってことだね!

みゆちゃん。味坂保育園のお友だちに教えてもらえて良かったね。これでお友だちと仲良く遊べるね。

みゆ: でも、お友だちにもう遊びたくないって言われちゃったから。
(間)

ゆうか: そっか...。あ！それなら私に任せて！私ね、時間を進めたり戻したりできる力を持っているんだよ！それで少しだけ時間を戻してもう一度お友だちと遊んでみたらどうかな？

みゆ: わかった。やってみる！

ゆうか: じゃあ戻すね！いってらっしゃい！

- ★効果音+画面
- ★画面:保育室
- ★積み木を最初の状態にしておく

<5>

- ★保育室

せいか: 積み木で何か作りたいな。あ！おうち作ろう！

なつみ: 私も積み木したい！かたらせて。

みりあ: みりあもしたい！

せいか: いいよ！大きいおうち作ろうね！

(おうちを作る)

- ★カメラをみゆにする

みゆ: あ、キリンさん作りたいのに積み木が足りない。(周りを見渡して、おうちを作っているのを見つける。そこまで移動する)

- ★保育室

みゆ: 積み木が足りないから貸して(大きい声で優しく)

せいか: 今使ってるからちょっと待って？

みゆ: でもね今使いたいんだ。

なつみ: 何作ってるの？

みゆ: 今ねキリンさん作ってるの。

3人: すごい!

みゆ: だから貸してほしいなって思って。

なつみ: どーする? 貸してあげる?

みりあ・せいか: いいよ。

みゆ: ここないけどどうするの?

せいか: これをこうするの(ジェスチャーで積み木を動かす)

みゆ: ありがとう。これでしっぽにするね。誰か着いてきて。

みりあ: はーい!

★積み木を持って行ってキリンに積み木を置く

★みゆ、みりあをアップ

みゆ: できた!!

みりあ: できて良かったね!

みゆ: あ、みりあちゃん、昨日はお絵かきしてるのに嫌なことしてごめんね。

みりあ: うん、いいよ。でもね、ゆかちゃんも絵本読んでる時嫌なことされたんだって。だからゆかちゃんにも謝った方が良かったかもしれないね。謝る?

みゆ: うん。

みりあ: ゆかちゃん、みゆちゃんが呼んでるよ。

ゆか: なーにー?

★みゆとみりあの所に移動する

みゆ: 昨日は嫌なことしてごめんね。

ゆか: いいよ。

なつみ: 皆、仲直り出来たの?

全員: うん! 出来たよ!(嬉しそうに)

せいか: 仲直りできて良かったね! じゃあ皆で本物のキリンみたいに模様付けようよ!

★模様を作る(あゆ、ゆか、なつみ)

貼る(せいか、みりあ、みゆ)

★「ともだちになるために」の前奏

全員: できたー!!!

★キリンの模様が見えるように工夫して立つ

★歌の1番を歌う

★1列で手を繋いで歌う

すみか: はーい! 皆座ってくださいーい!
とっても素敵なキリンさんが出来ましたね!
もったいないから明日まで残しておこうか!

全員: やったー!!!

すみか: 明日もお友だちと仲良く遊びましょうね!

全員: はーい!!!

★画面:りんりんに変える

ゆうか: みゆちゃん、皆と楽しく遊べたみたいだね!良かった良かった!味坂保育園の皆が教えてくれた通り、お友だちに優しい気持ちの"思いやり"を持って話したり遊んだりすることが大切なんだって私も分かったよ!ありがとう!じゃあそろそろ別の場所に遊びに行こうかな。またね。

★保育室を映す

全員: ばいばーい!

②演出の工夫

今回4歳児グループでは園での生活を再現できるように、模擬保育室を利用して劇を行った。また保育室とわかるように壁面掲示物として画用紙で雪だるまなどを作り、季節に合わせたものを制作した。発表する園の方針に合わせてクリスマスツリーなどはつけないよう工夫した。



劇中では、園児と保育者の見分けがつきやすいように、園児は体操服に名前をつける。保育者はエプロンを着て子どもたちがわかりやすいようにした。

また、先生方から様々なアドバイスをもらい、より園児らしさができるように言葉の選択をしておいた。その他にも、劇中にテーブルを使った際に園児役が6人いたため、カメラで撮影すると被ったり画面から切れたりしていた。そのため、台詞を話す人が誰か分かるように、音を付け加えながら画面を切り替えたりアップにしたりして、注目して欲しい部分をしっかり見てもらえるよう工夫した。

また、画面越しなのでゆっくりはつきり話すように心がけた。



劇をしている中で、淡々と進めていくのではなく、子どもたちに呼びかけながら質問をして、一緒に考えるなどして参加できる形にすることで見飽きないよう工夫した。

例えば、園生活の1部の自由遊びの中でお友だちの物を横取りしてしまい、もう遊びたくないと言われる。どうしたら良かったのか分からなかった為、その様子を見ていた子どもたちにどうしたら良かったのかを一緒に考えてもらった。こうすることで、物語に入り込みやすかったり、見飽きないのではないのではないかと思った。

5.練習経過

(1)準備の役割分担

〈脚本作り〉	
・日高莉音	・東野夏実
・平川美結	・松山美莉亜
・紫牟田亜優	・土山聖夏
〈報告書作り〉	
・松永純花	・角田結花
・宮崎宝希	・本田玲奈
・石原優香	



(2)中間発表

(感想)

・園での様子が見られて楽しそうだった。実際に積み木を使ったりしてよかった。人が見切れていたりしているところがあった。

・セリフを覚えていてよかった。時々みんなが積み木で隠れていたため、積み木の前で話したら良いと思った。積み木で作ったキリンをカメラでアップにうつしたりした方がキリンと分かりやすいと思った。

- ・役になりきっていてとても面白かった。積み木は大きなものを使っていて良いと思った。
- ・積み木を使用して、思いやりやお友だちの大切さを表現できる、発想が凄かった。時々、動きやセリフが止まってしまう部分があった。
- ・実際に起こりそうなお話になっていて見ていて面白かった。ハキハキと話されていたのでとても聞きとりやすかった。ナレーションで場面の説明をされていたこともあり、状況が分かりやすかった。
- ・くんやちゃん付けがいいと思った。名前が分かりやすいようにゼッケンなどをつけたいのではないかと思った。

(課題)

- ・積み木遊びのセリフを覚えて物語を展開する
- ・積み木の作り方、見え方
- ・遠近法を使って積み木を被らないようにする
- ・立つ位置によって声の聞こえ方が異なるため、カメラから遠い人ほど大きい声で話す
- ・残り10分をどう埋めるか
- ・お友だちを呼ぶ際の名前の呼び方 (○○ちゃんなど)
- ・セリフの言葉、言い方を変える

6.キャスト・役割分担

ナレーション	・石原優香
カメラ	・宮崎宝希 ・日高莉音
ピアノ・効果音	・本田玲奈
保育士役	・松永純花
園児役	・角田結花 ・東野夏実
	・平川美結 ・土山聖夏
	・松山美莉亜 ・紫牟田亜優



7.音楽

~ピアノ~

《おはようのうた》 《おかえりのうた》
《ともだちになるために》



~手遊び~

《3びきのこぶた》 《はじまるよ》



8.制作の様子

実際に積み木を使って家の構成を話し合う。



完成形



⇒⇒⇒

キリン(試行錯誤中)



9.結果・成果(子どもたちの様子の分析)

子どもたちは保育室に集まり、画面の前に座り今からどんなことが始まるのかワクワクしているような様子が見られた。また、画面越しで最初は戸惑っているように見えたが、自分たちの反応が伝わるということを子どもたちが理解すると手遊びも学生の真似をして楽しんでいるようだった。そして、劇が始まると画面に集中して学生の話の話を聞いたり劇の話に入りこんでいるように見えた。

劇中に学生がお友達と仲良くするにはどうしたらいいか問いかけをする場面があった。子どもたちは「おもちゃ貸して」や「仲間に入れて」などと学生の問いかけに子どもたち一人ひとりが考えて、伝えてくれていた。子どもたちの反応が自分たちが思っていた以上にあり劇に興味を引くことができているのかなと思った。味坂保育園の子どもたち(4歳児)は日々お友達と仲良く遊ぶために、それぞれがどうし

たら仲良く楽しく遊べるのか自ら考え、時には保育者からアドバイスを貰い遊んでいるのだと思った。

10.考察(やってみて分かったこと、課題)

練習の中で子どもたちはどんな反応をするのか考えながら練習をし、本番では少し遅れて聞こえたり途切れ途切れで聞こえたりして子どもたちの反応をきちんと聞くことはできなかったけれど子どもたちの反応に対して答えることができた。子どもたちの声が聞こえずらかったり、映像が見えづらかったりして不安もあったが、そこで不安な表情をすると画面越しに子どもたちに伝わるので常に表情は気をつけていた。

また、劇で子どもたちに問いかける場面があり、画面越しだったため子どもたちが答えてくれるか不安だったが、導入で子どもたちと会話する場面を入れていたので、リアルタイム

で繋がっているということが分かりやすかったと思う。劇中で問いかけるときには、子どもたちは話に入りこんでいるので、「ねえみんな」ではなく、園名を入れて呼んだり、何度か繰り返したりするとより伝わりやすくなると分かった。そして、自分が思っている以上にゆっくり話したり、動いたりする方が見やすいと分かった。自分はゆっくり話しているつもりでも他のクラスの作品や動画を見返してみると早く感じてしまったり、画面越しだったため動きが早いと動きが見えづらかったりした。緊張するかもしれないが、焦らずゆっくり自分も楽しんですることが大切だと思った。

また、保育室内の環境も実際の子どもたちの保育室に近いように壁面を作ったり積み木を置いたり本棚を置いたりして工夫した。積み木で作ったキリンにも模様をつけてよりキリンらしさを出した。子どもたちが劇の内容に入りやすいような環境を作ることも大切だと思った。

初めての試みで不安や緊張もあったけどしっかり練習して取り組みれば何事もできると思った。ここで学んだり感じたことをこれからの活動に活かしプラスにしていきたい。

11.発表会を終えての感想

<日高 莉音>

私たちは4歳児を対象に劇をしました。

私は主に台本を担当し、決められた時間で何を子どもたちに伝えたいか作り上げていくことの大変さを感じました。これまでの実習で子どもたちにかける言葉が大切だと学んだため、セリフ一つひとつの言葉も大切に選んでいきました。新しい方法に挑戦して遊びと表現を作り上げていくことがどれだけ難しいか分かりました。けれどメンバーや先生方と一緒に試行錯誤しながら作り上げていく時間は今思うと自分にとって大きなものになったと思いました。

本番は直前まで練習できたため、落ち着いて迎えることが出来ました。しかし自分たちの作ったものが何らかの形で子どもたちにちゃんと届くのか不安もありました。だけど、これまで練習してきた中で一番いい劇ができたと思います。

この劇が完成するまでは順調には進まなかった。メンバーの振り分けやセリフなど平等になるよう心がけましたが、それは私一人の案であり、押し付けてしまう形になってしまったこともありました。このことからメンバーがお互いの意見を尊重し合うことがこの劇を作っていく中で一番大切だと感じました。

子どもたちに何を伝えたいか、ということからそのために私たちはどう作り上げてどう協力していけばいいか実際にやってみて沢山学びがありました。これはこの先保育の現場でも生かせると思います。その時は少し余裕を持った自分でやり遂げられるよう頑張りたいです。

<松永純花>

今回の遊びと表現発表会はリモートという実際には子どもたちの反応を見ることが出来ないため私たちと子どもたちの会話のやり取りがきちんと行えるかどうかやったら画面越しの子どもたちに伝えたいことが上手く伝えられるか考えるのがとても難しく何度か苦戦しました。グループで空き時間に台本を何度読みあったり、修正点や良かったところの意見も出し合いました。初めは「自分の成長を喜ぶ」～カレーライスを素材に～というテーマで劇を行おうと思っていたのですが、何を伝えたいかと尋ねられた時に難しく分からなくなってしまいました。そのため「思いやり～おともだちの大切さに気づく～」というテーマに変更しました。去年は先輩が引っ張ってくれたが今年の発表会は1から考えて劇を作らなくてはいけなくて初めてのことばかりで大変でした。何より台本をギリギリまで考えて間に合うのか、成功することが出来るかととても不安でした。しかし、激が完成していくにつれ少しずつ不安が消えていきました。発表会本番は緊張はしましたが、緊張以上に楽しく発表会を行えること

ができました。今回の発表会を通して学びや気づきをこれから先にいかしていけるようにしたいです。

<角田 結花>

私は今回の発表を通して、例年とは違う取り組みに戸惑いや不安を感じることも多くありました。最初の頃はテーマも内容もなかなか決まらず、話し合いも進まなかったけど、先生からアドバイスをいただいたり、グループの皆で意見を出し合ったりしながら少しずつ完成に近づけていくことができました。活動を進めていくうえで、上手くいかないことも多くあったけど、そのままにするのではなく、一人ひとりが考えて行動することの大切さに気付くことができました。当日を迎えるまでに、リモートを通して子ども達が反応してくれるか分からなかったため、とても不安な気持ちがありました。しかし本番の発表ではとても緊張したけど、リモート越しに子ども達が、しっかり反応してくれたり喜んでくれたりした姿を見て、自信がついて最後まで笑顔でやり遂げることができました。今回の活動の中での学びや気づきをこれから先に活かしていけるようにしたいと思いました。私は今まで自分の意見をあまり伝えることができなかったけど自分の意見を伝えることの大切さを学ぶことができました。また、ただ劇をするのではなく、子どもたちに何を伝えたいのかを明確にしたことによって、しっかり頑張らないといけないという気持ちになれたのかなと思いました。大変なことも多くあったけど学生生活最後の行事として、今回のメンバーで取り組むことができ一生の思い出になりました。

<東野 夏実>

私たちはテーマを『思いやり～お友だちの大切さの気づき』にしました。そして、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや友だちの大切さ、思いやりに気付いてもらえるように実際に保育室での積み木遊びを劇にしました。保育室内での遊びを劇に選んだ理由は子どもたちの環境に1番近く、劇の内容を身近な事として考えやすいかなと思ったからです。

自分たちで劇のストーリーを考えたり、衣装や壁紙、小道具を作ったりするのはとても大変でした。子どもたちに内容が伝わりやすいようにセリフを考えたり、立ち位置やカメラの向きを変えたり何回も話し合いをして練習しました。しかし、去年とは違い、画面を通しての作品で何度練習しても不安がありました。なぜなら、通信や子どもたちの反応はその時になってみないと分からなかったからです。しかし、そこで画面越しで私たちが不安な表情をしていると子どもたちにも伝わってしまい楽しめなくなると思ったので表情を大切にしました。

実際に子どもたちは私が思った以上に反応があり、楽しんでくれていてよかったです。そして、終わった後に「楽しかった！面白かった！」や「ありがとう」と言ってもらえたことがとても嬉しかったです。全部終わった時にはメンバー全員で一つになれた感じがして感動しました。皆できてよかったです。コロナでできないことも色々あったけど、コロナだからできないではなくて、だからこそ今出来ることを考えて諦めないことが大切だと思いました。

<土山 聖夏>

私は今回の遊びと表現発表会が、保育園や幼稚園をリモートで繋げてあると知り、とても不安に思った。子どもたちの反応を直接見ることが出来ないのも、私たちの問いかけに反応してくれるのか、興味を持って見てもらえるのか考える必要があると感じた。

最初は、4歳児の子に何を伝えたいのか、どのように伝えるのかなど、グループのみんなと案を出し合って一つにまとめていった。話し合いの結果、劇をすることになり、原稿を何度も意見を出し合って変更をしながら完成に近づけていった。カメラを使うこともあり、どのようなタイミングで切り替えるのか、劇に出る側とカメラ係が合わせるのはとても大変だった。カメラを使う時間が限られていて、本番上手くいくかととても不安だった。本番で

は、保育園とリモートで繋ぎ、時差などあったが、子どもたちも真剣に聞いてくれていて、問いかけにも答えてくれていたと思った。

子どもたちが劇を通して、私たちのテーマであった、「思いやり」が少しでも伝わっていたらいいなと思う。

<松山 美莉亜>

今回は今までの遊びと表現発表会とは異なり、クラス関係なく年齢によりグループを決めていた。グループでどんな構成にして何を子どもたちに伝えたいのかを全員で話しながら、台本の構成、保育室ぼく見せるための壁画、カメラワークなど協力しながら進めて行った。今回はコロナウィルスの影響もあり大谷講堂にて子どもたちの反応を見ながら行うことができなかつた。リモートで繋ぐまで子どもたちの反応は分からないし、自分たちの声がきちんと届くのか、問いかけた質問に大して答えてくれるのか不安なことが多かつた。

カメラを使つてのセリフの内容や人物の動きなど積み木を組み立てる場所や見せ方など練習する度にみんな意見を出し合い変更していった。カメラを使つて練習できる時間があまりなくて、不安が少し残つたまま本番を迎えた。

本番は1番最後の発表で緊張した。リモートの為時差がありながらも劇を進めていき、子どもたちも真剣に見て、問いかけにも元気よく答えてくれた。

子どもたちが劇を通して、お友達への思いやりを感じてくれたらいいなと思った。今回の経験を通して、自分たちが楽しそうな雰囲気子どもたちに興味を持たせるような内容をやる事が大切だと感じた。子どもたちが劇を通して、お友達への思いやりを感じてくれたらいいなと思った。

<平川 美結>

遊びと表現発表会を行つてグループで子どもたちに何を伝えたいのかをまず決めてそれからどのように伝えていくか話し合いをしたが最初に考えていたもので始めていこうしていたが担当ごとの先生方に話を聞いていくことでもっと違うように伝えたいいやこんなことしたら子どもたちに伝わるんじゃないかと沢山話し合いをして今回の発表に繋がつた。台本でもリモートだったので子どもたちに伝わるような言葉掛けや伝え方がとても難しかつた。問いかけの部分もあつたが子どもたちがどんな反応をするのか考えることが必要で質問の仕方も何個も考えていく事が大変だつたなと感じた。実際に発表して思った以上に子どもたちが一つ一つに反応してくれて質問にも答えてくれてグループで意見を出しあえて良かったなと思った。またリモートだったので声の大きさやハキハキと喋らないと伝わらなかつたので子どもたちが聞こえるようゆっくりと喋るよう心掛けた。目の前で発表ではなかつたけれどグループ全員で考えた発表だつたのでとても達成感がありいい発表なつたなと思った。

<本田 玲奈>

3歳くらいから友達と遊ぶことを知り、友達と遊ぶ楽しさ、関わることの楽しさを4歳ごろに園生活を通して知っていくと思います。友達と関わっていく中で自分の思い通りにならなかつたり、やりたいことができなかつたり、遊びたいおもちゃで遊べなかつたりと楽しいことばかりではなく、うまく行かないことも出てくると思います。それを実際に子どもたちが生活している中で起こりそうなことを劇にして、友達とどう関わつたら良いか、一緒に遊びたい時、おもちゃを借りたい時、友達になんと言つたらいいか劇を通して子どもたちと一緒に考えました。一緒に考えることで、自分がもし同じ立場になつた時にどうすればいいか考えられるのではないかと思います。実際に子どもたちの前で劇をして、友達とうまく関われないときにどうしたらいいか聞くと「一緒に遊ぼう!」「おもちゃ次貸して!」などたくさん答えてくれました。それを踏まえて劇を進めて、お友達と上手く関わる事ができた時に、子どもたちがたくさん拍手してくれました。私は友達とうまく関わられたなど、友達と関わることに對してこの歳になつてあまり考えなかつたけど、子どもたちにとって、友達と関

わるということはすごく大きなことで大切なことなんだと実感しました。私たちもちろんそうだけど、子どもたちにとって、友達という存在はすごく大きなものなのかなと感じました。それを、劇にして伝えられたのではないかと思います。

<宮崎 宝希>

今回、私はカメラ担当で劇に参加した。練習の時は前からみんなの様子を見て、訂正した方がいい所や上手に出来ていた所など伝えながら、カメラの向きやどこでカメラを切り替えるかなどを考え、主人公の女の子がメインになるように、でも全員がしっかりとカメラに写るように色々考えた。初めてカメラの担当をして、とても難しいという事を知った。カメラの向きを動かしながらボタンで画面に移る映像を切り替えるのは、覚えるまでが大変だった。劇が成功していても、カメラで撮っていなければ意味がないので、カメラは写ってはいないけど重要な役だったんだと感じた。本番では、緊張しながらもみんな笑顔で今までで1番の劇だったと感じた。カメラの操作も失敗することなく終われてよかった。最後のみんなの手を繋いで歌っている所で一人一人の顔をアップして撮った時、みんなの笑顔を見て泣きそうになった。今回、11人でおおたにこども劇場をやる事が出来て本当に良かったと思う。みんなダイスキ！！

<紫牟田 亜優>

私は遊びと表現発表会を通してたくさんの事を学びました。最初はみんなの足を引っ張らないか不安で心配でした。みんなみたいにしっかりしているわけでもないし、何をしたらいいのかかわからずオドオドしてしまっていました。それでもみんなとても優しく丁寧に教えてくれました。とても素敵な人達に囲まれて居るとあらためて実感しました。一人一人一生懸命で個性があり、子供に伝えたいことも少しずつ違いとても楽しくて勉強になりました。みんなの思っている事が違うからこそとてもいい発表会になったと思います。発表会を通して人の考え方を取り入れることの大切さや、同じ夢を持っているからこそ考え方が違ったりして大変でしたが協力し合うことの大切さ、子どもの気持ちに寄り添って考えることの大切さ、難しさ、子どもにどう伝えたらいいかなどたくさん大切なことを学びました。この発表会のおかげで成長できた部分があると思います。それをこれからの生活で活かしていきたいです。

<石原 優香>

遊びと表現を通して、今まであまり話すことがなかった子達とも話して、子供たちがどのようにしたら、楽しんでくれるのかどんな反応をしてくれるかを今回は直接子供たちの前でやるのではなくオンライン形式ということもあり、すごく難しく皆と話し合いながらしました。特に子どもたちに、何を伝えたいのか、それを伝えるためにどうしたらいいのかを考えてしていくのがとても難しく感じました。本番では、画面の向こう側で子供たちが楽しんでいる様子も分かり、一人一人が真剣に見てくれていてその姿を見てとても嬉しく感じました。とてもいい経験になりました。